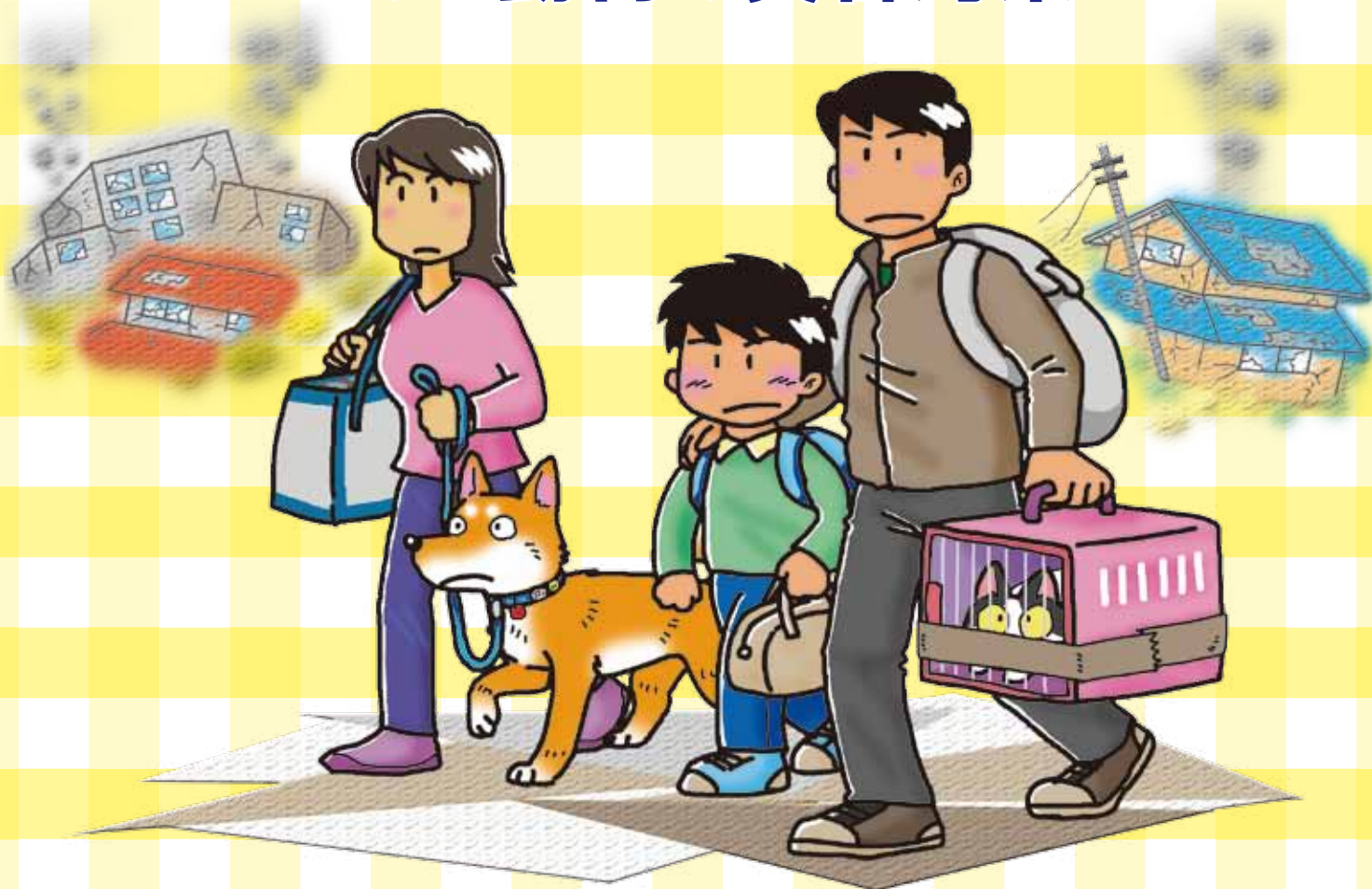


備えよう！

いつもいっしょにいたいから

ペット動物の災害対策



災害は突然起こります。

いざというとき、あなたの家族とペットが
ともに安全に避難でき、一緒に暮らせるように
日ごろからの心構えと備えが大切です。



環境省
Ministry of the Environment

日頃からの災害への備え

■住まいの防災対策

災害時に動物を守るためには、まず飼い主が無事であることが大切です。住まいを災害に強くしておくことが、一緒に住んでいる動物の安全にもつながります。

地震に備えて家具の固定や転倒防止、住まいの耐震強度の確認などの対策をとみましょう。

動物が普段いる場所や飼育ケージなどは、災害のときに動物が安全でいられるよう、定期的に点検し、固定するなどの対策をとみましょう。

室内で飼っている場合

動物が普段いる場所は、地震のときに家具やケージが倒れたり落下したりしないようにしっかり固定しましょう。水槽などで飼っている場合は台に固定し、ガラス飛散防止フィルムを貼るなどの対策をとみましょう。



屋外で飼っている場合

飼育場所は、地震のときに破損しやすいブロック塀や、ガラス窓の下、倒れやすい建物のそばは避けましょう。災害時には動物が驚いて逃げ出すことがあります。首輪や鎖は外れたり切れたりしないか、ケージや囲いには隙間がないか、定期的に点検しましょう。



■家族で話し合い

災害が起こったときにどうするか、さまざまな場面を想定して、家族全員で話し合っておきましょう。災害のときに動物を守れるか、連れて避難ができるか、動物の種類(品種)や数をよく考えて飼いましょう。

- 家族間の連絡方法、集合場所
- 非常持ち出し袋など備蓄物資の保管場所と中身
- 飼っている動物をどう守り、避難させるか
- 飼い主が留守中の災害の時の対処方法



■ご近所、飼い主仲間との連携

普段からご近所の方々と良好な関係を築けるよう、コミュニケーションや飼養マナーに気を配るとともに、万一のときにお互いが助け合えるよう、ご近所や飼い主仲間と防災について話し合っておきましょう。また、緊急時に動物を預かってくれる方や場所を確保しておきましょう。

■地域情報の収集と避難訓練

住んでいる地域の防災計画を確認しておきましょう。災害の時に避難場所までどう行か、建物の倒壊などで道が通れなくなること想定して複数の経路を考えましょう。そして、実際に家族で動物を連れて避難場所まで行く訓練をして、所要時間や危険な場所等をあらかじめチェックしておきましょう。また、地域で災害対策の会合や避難訓練を行うときなどに、動物を連れて避難する方法を地域住民と話し合っておきましょう。

避難訓練でのチェックポイント

- 避難場所までの所要時間
- ガラスの破損や看板落下などの危険な場所
- 通行できないときの迂回路
- 避難場所での動物の反応や行動
- 動物が苦手な人への配慮



■迷子札とマイクロチップ

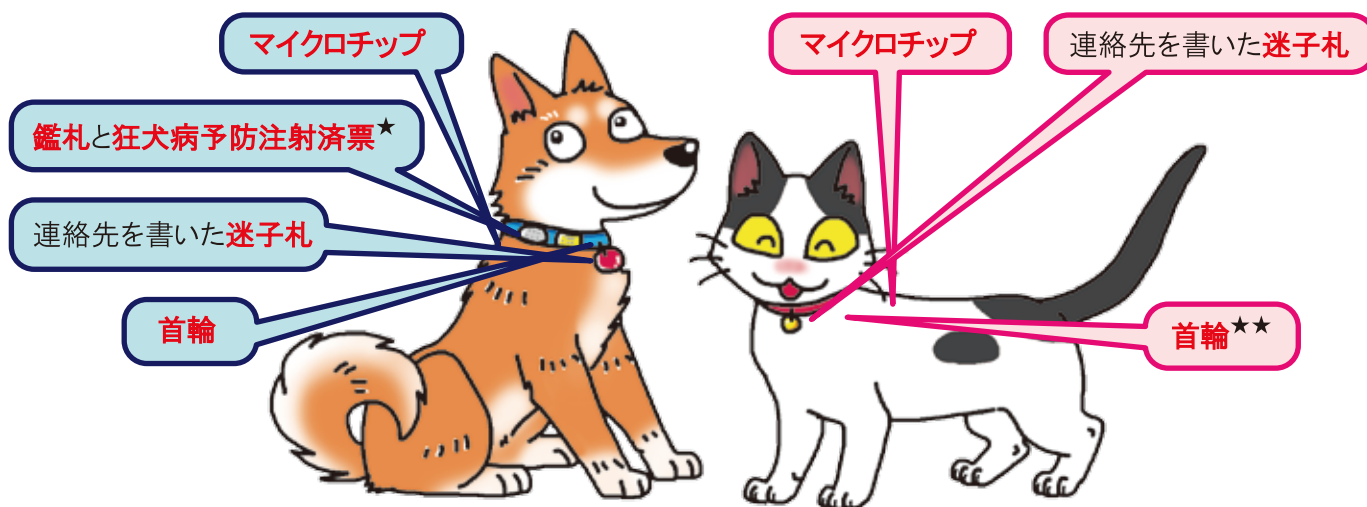
突然の災害では動物と離れ離れになるかもしれません。動物が迷子になりどこかで保護されたとき、すぐに飼い主がわかるように、普段から身元を示すものをつけましょう。外から見えて誰でもすぐわかる迷子札(鳥は足環など)をつけるとともに、半永久的に識別可能で確実な身元証明としてマイクロチップを入れるといった、二重の対策をとみましょう。



犬の場合



猫の場合



室内飼いの小型犬や完全室内飼いの猫でも、パニックになって開いた扉から逃げ出したり、地震等で倒壊した壁の隙間から外に出て行方不明になった事例が多数報告されています。災害はいつ起こるか予想できないので首輪を常につけているようにしましょう。過去の災害では、迷子の間に瘦せて首輪が取れてしまった事例も起きていることからマイクロチップも忘れずに入れるようにしましょう。

!! その他の動物の場合 …動物の種類に応じて、足環、耳標などをつけ、マイクロチップも入れましょう。

★犬の鑑札と狂犬病予防注射済票の装着は狂犬病予防法で飼い主に義務付けられています。
★★猫の首輪は引っかかりを防止するために、力が加わると外れるタイプを使用すると良いでしょう。

健康管理としつけ

突然の災害は人にも動物にも大きなストレスがかかります。さらに、慣れない避難所で、大勢の人や見知らぬ動物と一緒に生活では体調を崩しがちです。普段から、健康状態に注意し、ブラッシングで抜け毛をとるなど動物の体を清潔に保ち、予防接種やノミなどの外部寄生虫の駆除をしっかり行いましょう。

避難所で迷惑にならないように、むやみに吠えない、キャリーバッグやケージに慣らしておく、他人に友好的に接することができるなどのしつけを普段からしておきましょう。これは周りの人のためでもあり同時に、動物のストレスを少なくすることにつながります。

犬の場合

- 「待て」「お座り」「伏せ」などの基本的なしつけ
- ケージの中に入ることを嫌がらない
- 不必要に吠えない
- 人を怖がったり攻撃的にならない
- 決められた場所での排泄
- 狂犬病予防接種と各種ワクチン接種
- 犬フィラリア症など寄生虫の予防、駆除



猫の場合

- ケージやキャリーバッグに入ることを嫌がらない
- 人やほかの動物を怖がらない
- 猫用トイレでの排泄
- 各種ワクチン接種
- 寄生虫の予防、駆除



ケージに慣らす方法

ケージの中でもおとなしく落ち着いていられるように普段から慣らしておきましょう。避難所など慣れない環境でも、慣れ親しんだ囲われた場所があることは、動物の心を落ち着けるとともに、飼い主にとっても動物を管理しやすくなります。日常生活でも留守番や来客の際、車での移動時などに役立ちます。

- 普段から休めるスペースとして開放しておく
- 中でリラックスしているのを見つけたらほめる
- 中でおやつやフードを与えるなど良い印象をもたせる
- 動物病院に行く手段や閉じ込められる場所など、悪い印象に結びつかないようにする



- 動物が寝そべることができて、広すぎず、狭すぎない大きさ
- 柔らかい素材のものよりも、硬い材質の方が安全度は高い
- 初めての場所でも慣れた居場所なのでストレスが少ない
- 安心できる場所にしておけば、災害の際に動物が避難することもある

■動物のための備蓄品の用意

ライフラインの寸断、緊急避難などに備え、必要な物資の備蓄をしましょう。避難所では、人に対する準備はされていますが、飼っている動物に対する備えは基本的に飼い主の責任になります。また、救援物資が届くまでには時間がかかります。少なくとも、5日分は用意しておきましょう。

持ち出し品には優先順位をつけ、優先度の高いものはすぐに持ち出せるようにしましょう。その他のものは、分かりやすいところにまとめて保管し、状況に応じて判断しましょう。★

★いったん避難した後に自宅にもものを取りに戻る際には、行政の指示に従ってください。

【優先順位 1】・・・命や健康にかかわるもの

- 療法食、薬
- フード、水(5日分以上)
- 予備の首輪、リード(伸びないもの)
- 食器
- ガムテープ(ケージの補修など多用途に使用可能)



【優先順位 2】・・・飼い主や動物の情報

- 飼い主の連絡先
- 動物の写真
- ワクチン接種状況
- 既往症・健康状態
- かかりつけの動物病院 など



【優先順位 3】・・・ペット用品

- ペットシート
- 排泄物の処理用具
- トイレ用品(猫の場合は使い慣れたトイレ砂)
- タオル、ブラシ
- おもちゃ
- 洗濯ネット(猫の場合) など



携帯電話に動物の写真を保存しておきましょう

動物と離れ離れになったとき、動物の写真はポスターの作成や、飼い主の証明などに使えます。動物が飼い主と一緒に写った写真があると、飼い主を特定するときに役立ちます。



2

災害が発生したときの対応

■まずは人の身の安全

自分の身の安全を確保しましょう。災害時に動物を守るためには、まず飼い主が無事でいることが大切です。落ち着いて、自分と動物の安全を守りましょう。

●地震の場合

大きな揺れは、短時間です。ガラス面や家具から離れ、丈夫なテーブルや机の下に身をかくし、クッション、雑誌などで頭を保護するようにしましょう。

揺れが収まったら火の始末をして、ドアを開けて避難経路を確保しましょう。



■動物の安全

突然の災害では、動物もパニックになりいつもと違う行動をとることがあります。興奮している動物に不用意に手を出して咬まれるなど思わぬけがをしないように気を付けてください。

飼い主が動転していると動物にも伝わります。飼い主が落ち着いて、普段通りの言葉をかけるなど、動物を落ち着かせるように努めてください。

犬にはすぐにリードをつけましょう。猫は慣れたケージなどに入れましょう。

■落ち着いて避難の用意

室内のガラスの飛散や倒壊家具などに注意して、非常持ち出し袋を用意し、電気のブレーカー、ガスの元栓を切ります。避難するときは、飼っている犬や猫などは一緒に避難する同行避難が原則となります。

🐾 犬の場合

- リードをつけ、首輪が緩んでいないか確かめます
- 小型犬などはリードをつけた上で、キャリーバッグに入れるのもよいでしょう

🐾 猫の場合

- キャリーバッグやケージに入れます
- キャリーバッグなどの扉が開かないようにガムテープなどで固定しましょう

■避難場所へ

避難の指示があった時には、動物を連れて避難しましょう。

災害時は人も動物も興奮していますから、普段と違った行動をとることも考えられます。リードは放さないようにしっかり持ち、キャリーバッグやケージはしっかり抱えて動物の安全に気を配りましょう。

倒壊した建物や切れた電線など、避難場所までの経路には危険な箇所がたくさんあります。足元や頭上に気を配り、落ち着いて行動しましょう。



3

避難所や仮設住宅での注意点

■周りの人への配慮

これまでの災害では、動物がいることによってつらい避難生活の中での心の安らぎや支えとなったという声がある一方、吠えてうるさい、咬まれた、毛が飛んで不衛生などといったことが原因となりトラブルになることもありました。

避難所にはたくさんの人が集まります。動物が好きな人、嫌いな人、動物のアレルギーを持つ人、動物に不用意に手を出しかねない幼い子供など、多様な人々が一緒に暮らす場所ですから、動物の飼い主は普段よりも周りに配慮することが求められます。

避難所では、動物の世話やフードの確保、飼養場所の管理は飼い主の責任の下に行うことになります。衛生的な飼養管理を行うことはもちろん、周りの人に配慮したルールを作り、飼い主同士が協力して助け合いましょう。

また、仮設住宅への入居に先立って、動物飼養ができるエリアと飼養禁止のエリアを分けておくことができれば後の飼養にかかわるトラブルも少なくなります。

避難所や仮設住宅でのチェックポイント

- 「ペットの会」をつくるなどして、飼い主同士が協力しましょう
- ペットフードなどの支援物資の配布など、情報を共有しましょう
- 災害ボランティアによる支援を活用しましょう
- 動物が飼えるエリアでも、吠え声や排泄物の処理など近所の方への気配りを忘れないようにしましょう



■動物の健康管理

災害時は人も動物も多大なストレスを感じていますし、物資も不足します。免疫力が低下したり、衛生を確保することが難しい場合もあるため、人も動物も体調を崩したり病気が発生しやすくなります。動物の排泄は決められたところでさせ、速やかに処理するなど、できる限り衛生に注意しましょう。

動物もストレス下にあるため、むやみに吠える、周りの人を怖がり攻撃的になる、食欲がなくなる、排泄をしない、下痢をするなどの問題が出てくる場合があります。体調に気を配り、不安を取り除くよう心がけましょう。

！ 車中避難ではエコノミークラス症候群と熱中症に注意！

自家用車の車内のように狭い空間で長時間じっとしていると、脚の血の流れが滞って小さな血の塊ができ、それが肺などに詰まる**エコノミークラス症候群**になる危険性があります。定期的に車外に出て運動したり、水分をこまめに摂って血の巡りをよくするように心がけましょう。

熱中症にも注意して、換気や水分補給を十分に行うようにしましょう。晴天の日はもちろん、曇天や外気温がそれほど高くない日でも、車内温度は思ったより上昇します。特に動物だけを車の中に残すときは、車内の温度に常に注意し、飲み水をたっぷり用意しておきましょう。



- 熱中症の動物の主な症状：意識がない、意識があっても倒れたまま動かない、体が異常に熱い、息が荒い、舌が異常に赤い など



防災チェックリスト



●災害に備えて

- ☐ 住まいの防災対策(地震対策など)を行いましたか
- ☐ 家族で防災について話し合いましたか
- ☐ 地域や飼い主仲間と防災について話し合いましたか
- ☐ 地域の防災計画を確認しましたか
- ☐ 家族で動物を連れた避難訓練をしましたか
- ☐ 動物の一時預かり先を確保しましたか
- ☐ ケージ、キャリーバッグなど動物を避難させる用品を用意しましたか
- ☐ 動物に迷子札(犬は鑑札と狂犬病予防注射済票も)をつけマイクロチップをいれましたか
- ☐ 動物に必要なしつけや予防接種などの健康管理をしていますか
- ☐ ライフラインが寸断しても数日はしのげる備蓄をしていますか
- ☐ 緊急避難のときに持ち出すものを用意していますか



●動物のための持ち出すもののリスト

【優先順位 1】・・・命や健康にかかわるものは持ち出しやすい身近なところに置いておきましょう

- ☐ 療法食、薬
- ☐ 5日分以上のフード、水
- ☐ 予備の首輪、リード(伸びないもの)
- ☐ 食器
- ☐ ガムテープ(ケージの補修など多用途に使用可能)



【優先順位 2】・・・飼い主や動物の情報を記録したものを用意しておきましょう

- | | | |
|-----------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|
| ☐ 飼い主の連絡先 | ☐ 動物の写真 | ☐ ワクチン接種状況 |
| ☐ 既往症・健康状態 | ☐ かかりつけの動物病院 | など |



【優先順位 3】・・・ペット用品は分かりやすいところにまとめておきましょう

- | | | |
|--|-----------------------------------|--------------------------------------|
| ☐ ペットシート | ☐ 排泄物の処理用具 | ☐ タオル |
| ☐ ブラシ | ☐ おもちゃ | ☐ 洗濯ネット(猫の場合) |
| ☐ トイレ用品(猫の場合は使い慣れたトイレ砂) | など | |



環境省

Ministry of the Environment

発行：環境省自然環境局総務課動物愛護管理室

所在地：〒100-8975 東京都千代田区霞が関 1-2-2

<http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/>

編集・デザイン：つしまみかこ

製作：株式会社オーエムシー

平成 23 年 9 月発行

地球のいのち、つないでいこう



生物多様性

未来が変わる。
日本が変わる。



〇お問い合わせやご相談は、お近くの都道府県、政令市、中核市等の担当窓口へ

千代田保健所

〒102-0073

千代田区九段北1-2-14

TEL:03-6256-8177

FAX:03-5211-8190

Mail:chiikihoken@city.chiyoda.lg.jp